

JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について 地域住民対象説明会 議事録（要約）	
開催日時	平成25年11月30日（土曜） 13:00～14:30
場 所	谷津コミュニティセンター
出席者	市瀬学校教育部参事、小野寺教育総務課長、島本学校教育部主幹、森野都市整備部主幹、浅野目青少年課長、天野こども政策課長

島本主幹 （JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について、資料に基づいて説明）

【質疑応答】

質問者 市長や教育長はお祭りに行く暇があっても、こういうところへ来る暇がないのか。時間をやりくりすれば来れるだろう。やっぱり責任ある人がちゃんと基本的なところを説明するのが筋だよ。皆さんは実務的なことで、市役所の中で大変優秀な方ばかりそろっているからよくわかるけれども、いろいろ苦労して、案を2点、3点考えていただいた努力も認めるよ、それは。大変ありがたいと思っている。でも、それ以前に市長がちゃんと来て、教育長がちゃんと来て、皆さんの前で堂々と基本的なところを話すべきがスタートラインじゃないのか。

回答者 市長と教育長にはそのような御意見があったことは再度伝える。

質問者 この高学年分離の第2案に関して、6ページのことについての見解を説明してほしい。この前の説明会でも、小学校の先生から、高学年を分離したら小学校教育は成り立たないという意見があったにもかかわらず案として出している。これは、奏の杜の住居表示の際と同じ。去年の3月、市長は住居表示審議会の答申を受けて奏の杜じゃなくて谷津にするという意見を受けて、我々に谷津で6月議会に提出する、皆さんいいですかという説明をちゃんと何回もしている。我々いいですと言ったら、そのとおりになるかと思ったら、奏の杜に住所がひっくり返ってしまった。だからはっきり言って、もう最後の最後まで市の言うことはわからない。だから、そんなにゾンビみたいなものが依然として生きているということはおかしいんじゃないか、これにちゃんと応えているのかということだよ。6ページの皆さんの指摘に。

回答者 高学年分離をする案が再び出ている一つの理由としては、今回の方向として、通学区域の変更は行わない、その中で新たな案として56学級を受けとめるということの他に、高学年分離をする以外にはなかなか見出せなかったというところがあり、高学年を分離するという考え方について、再度皆様方に御意向、御意見を伺うのが主である。

その分離をした中で教員の管理監督等をどのようにしていくかというところは、やはりその段階での校長先生の強いリーダーシップ、それをバックアップする教育委員会の体制が必要になると考えている。

また、非常対応時の引き渡しの安全性についても、特に高学年と低中学年に御兄弟関係とある場合の展開については、いましばらくお時間をいただきたいというのが正直なところである。

それと、高学年としての自覚と成長や低学年としての成長について。実際、上級生としての役割は4年生が担うことになるが、一つには小学4年生の段階での自覚といったものが生まれてくるのではないかと考えている。

また、1年生から6年生での教育が基本であるという強い御指摘について。本市教育委員会としては、現段階、6・3・3制の中での学校教育を基本としており、高学年分離をしたとしても、実際上の運営の中では、小学校は6年間というところは変わらないと考えている。ただ、一体として教育を行うということに弊害が生まれてしまうので、基本的には、今回案とお示しをしているその56学級を受けとめさせていただくという方向でいかせていただけるのであれば、我々としても、その方向でいきたいと考えている。

そして、4年生から6年生のクラブ活動については、分離をした場合しない場合、ともに、場所の確保だったり、活動の工夫について、今後学校と協議をする中で検討しなければならないと考えている。

質問者 谷津幼稚園については現状という形になると思うが、受け入れは問題なくできるのか。

回答者 谷津幼稚園については移転をしないというようなことで説明をさせていただいている。ただし、御存じのように、この地区は非常に幼稚園児童数の見込みが非常にあり、現状のままで谷津幼稚園を運営したとしても、園区全部の児童を谷津幼稚園で対応するのは非常に難しい。3園区という考え方があるので、例えば向山幼稚園なども含めて通園を考えれば、対応できるということである。

質問者 谷津幼稚園であれば、うちの家から歩いて通えるけれども、もう一つ通え

る距離として、私立のくるみ幼稚園を考えていた。そこで、習志野市役所にお伺いして、できれば谷津幼稚園のほうに通わせたいのだが、大丈夫かと聞きに行った。そしたら、職員の方は、心配しないでくださいとはっきり言ったので、谷津幼稚園にしようと決めた。今おっしゃるように、もし谷津幼稚園が受け入れできなくて、津田沼と向山にということならいたし方ないと思うけれども、その場合にはやはりバスの通園であるとかの御検討をいただかないと、やっぱりそういうふうに市役所の職員にお聞きして、くるみ幼稚園にもう入れない年齢になってしまったので、そこはちょっと考えていただきたい。

質問者 4歳から入園させたいと考えていて、もし谷津幼稚園が受け入れられず、向山幼稚園になった際に、バス通園が決定していないと結局は同じことだと思うので、具体的にいついつまでに決定をするのかを明確にさせていただきたい。

回答者 現在、こども部で、幼稚園児、保育所の子どもの推計を行い、こども子育て支援事業計画というものを策定している。この計画の中で、平成27年から31年間の推計ということで、見込みをさせていただいている。これは当然、谷津地区の部分も入っているが、この中で地区ごとに児童数の見込みを立て、その児童数で幼稚園、保育所に通う子どもさんがどのぐらいいるかという見込みを立てた中で、その対応策を考えていくというような計画になっている。保育所でいうと、待機児童対策というようなことがあるけれども、認可外の施設が手を挙げているということも含め、できるだけ待機の状況が出ない、オーバーフローしないような方策を考えていきたい。

質問者 次回開催予定2月とあるが、それまでにはある程度統計がとれるという形で認識してよろしいのか。入園してみて、やっぱりバスはだめでしたというのが一番我々困るので、ある程度前もって、いつまでに決定というところを明確にさせていただきたい。

回答者 今推計を出している中で、幼稚園に入れれないといった状態が来年だとかそういう推計ではない。推計を早目に出して、そこら辺の対応というものは見ていきたいと思っている。

質問者 幼稚園があると小学校も狭い。しかし幼稚園を動かしてもらっちゃ困るということであれば、例えば、このコミュニティセンターの1階を幼稚園に使

うと。前にもグラウンドがある。コミュニティセンター、それからヘルステーションは仲よし幼稚園跡地に持っていったほうが、習志野市の公共交通機関の全ては、JR津田沼に集中しているわけだから、そちらのほうが便利じゃないかという気がする。

回答者 基本的にこの谷津コミュニティセンターも、この谷津地域とこれから開発が進んでいく中である奏の杜の地域の皆様方で社会活動に使用していただく施設になっていて、現状においても、さまざまサークル活動等がある中で稼働しているという状況がある。また、施設整備的にも幼稚園としてできるかどうかというところについても、なかなか難しいという状況がある。そして仲よし幼稚園跡地活用事業についても、あちらのほうについては駐車場等公共用スペースとして確保されるという中のもう1点としては、子育て支援施設というような考え方で事業提案というのものもある。谷津幼稚園機能については、これまで移転というなお話をさせていただきましたけれども、幼稚園、小学校、そして中学校のその学びの連続というような中で、現段階は整理をさせていただいているというようなことで御理解いただきたい。

質問者 谷津地域のいろんな文化的な拠点として、みんなここを使っていると。これを動かすのは大変だというのはわかるけれども、むしろ津田沼駅に近いほうが、その人たちは便利じゃないのか。距離的にも、谷津幼稚園と谷津コミュニティセンターは離れていない。

回答者 公共施設再生計画の中で、学校に、地域の拠点、核という一つ機能を付加していこうという考え方を持っている。そういう中で、谷津にどのようにという展開も考えていく必要があるが、学校の複合化という一つの考え方の上で例えばこの谷津コミュニティセンターもどこかへ吸収されるであるとか、そういう総合的な公共施設のあり方について、その計画づくりを今年度中にする形で進めている。一方、こども園構想の中では、中学校区に1つのこども園というところで、幼稚園、保育所機能を持ち合わせたこども園、これをどこにどのような規模でというところは、第2期以降、32年度以降だが、計画自体は、もちろん26年度以降の中で進めていくので、また本日の御意見も含めて検討していく。

質問者 計画の中で56学級というのがあるが、7,000人規模の中での児童数をはき違えていたというお話あった。また860世帯ぐらいの規模でマンションができると思うけれども、それに対する今回この推計というのは妥当なの

か。案1についての計画上、35年の56学級とあるけれども、実際は60学級ぐらいできるのか、その辺を計画されているのかお聞きしたい。

2点目については、一時校舎を建てる計画をされているけれども、谷津小学校の敷地がこういった動きになって、グラウンドはどこが使えて、どこが使えなくなるかというところが全くわからないので、そういったところでの計画の妥当性がわからない。

3点目は、近隣公園を使うとあるけれども、近隣公園の間に交通量の激しい道路が1つある。そこに対してさすがに先生1人で見れるのかというところがあるので、例えば橋を建てるとか、そういった計画は掲げられているのか。また、近隣公園がどのようになるかというのもお答えいただきたい。

回答者 869戸のマンションも含めた推計として妥当かどうかについては、基本的に将来推計も含めて、市の人口推計を行った業者に昨年度末に委託をした中では、概ね妥当ということで受けとめている。

その上で、フローの中では、基本的に56学級の収容ということで一旦整理をしている。段階を経て、35年度に56学級あるという考え方。ただ、最後の10教室については実数を把握する流れの中で、規模を判断をさせていただこうという考え方で整理をしている。

それと、案1におけるグラウンドのスペースについて。今お話しできるのは、グラウンドがなくなることはないということ。ただ、その配置、レイアウト、工事の展開も含めて26年度に全体の計画を検討させていただければというように考えている。現状の中でどのぐらいのスペースになるのかについては、現状、お答えはできない。

次に、近隣公園を校庭として代替とした場合の道路横断等の安全性について。現段階、横断歩道橋の設置は考えていない。そのかわり教職員にサポート体制をとる形で、安全確保を考えている。

回答者 近隣公園の現状についてお話しさせていただく。近隣公園は2.2ヘクタールあり、多目的広場が7,000㎡程度、芝生広場が2,000㎡程度、芝山が6,000㎡程度あり、残りは駐車場とか、桜の広場とか、小さな休憩所がある。その中でグラウンドの代替として使わせていただくことになっているのが多目的広場である。この2.2ヘクタールの公園は、都市公園法12条の中で、協議会、集会、展示会、その他これらに類する催しのために都市公園の全部、または一部を独占して利用することができるとなっている。これは公園管理者が習志野市になるので、そこに許可をいただき、使用ができるということになっている。

回答者 少し補足させていただくと、資料の10ページ目、推計では最大で56という中で、いつの年度にどのぐらいかという推計数値は持ち合わせており、谷津小学校では現在32教室を確保できる。それを将来的には56学級に対応するために、まず当面教室不足がする部分として、仮設の校舎を10教室相当建てる。学級数が増えることによって、やはり特別教室棟も必要であると。また、あるいは推計を見定めた中で、既存の校舎、老朽化対策もさせていただいて、56学級に対応するために、また改めて仮設の校舎を建てさせていただこうということである。

この中で、来年度には全体計画をさせていただいて、校舎の配置バランス等々検証し、グラウンド用地がどのぐらい確保できるのかというようなところは、改めて検証させていただきたいというふうに思っている。

様々御心配いただいているとは思いますが、近隣公園をグラウンド用地として借用することに関し、近隣公園まで行くにはお子さん等でも5分程度かかる、大きな道路を渡るといった部分での安全配慮という御質問もいただいている。そういった課題を一つ一つ解決しなければいけないと考えている。通学区域を変更しないということで、56学級規模の運営ということになると、やはり学校施設の面だとか、お子さんの指導の面だとか、そういった部分を整理させていただかなければいけないと思っている

質問者 今のスペースで56学級を受け入れるということがイメージできない。今の1、2年生が5クラス、3年生から6年生が4クラスだと思うけれども、その人数で、グラウンドも敷地的にもぎゅうぎゅうに見受けられるのが印象。それは多分どなたが谷津小を見学されても、そういう印象を受けると思う。行間時間、昼休み、その他もろもろの時間等を見に行くと、すごい狭い中で、すごい人数の子どもたちが遊んでいる。そんな中で、56を受け入れることで話を進めていくのを聞いていて、教室の箱とグラウンドの庭を用意するのは一生懸命考えてくださっているのはすごくよくわかるけれども、子どもたちが生活している姿が浮かばない。入学式、卒業式をどこでやるつもりでいるのか、保護者の規制が入ってしまうのか、運動会は今もあのグラウンドではぎゅうぎゅうで、立ち見状態。箱を用意した、場所も用意した、その中で子どもたちが結局は犠牲になっているとしか見えないので、いろんな都合があるとは思いますが、それは大人の都合であって、実際生活する子どもたちのことを考えて、さらなる検討をお願いしたい。

～閉会～